

災害統計グローバルセンター設置発表式を行いました（2015/3/15）

テーマ：国連防災世界会議、国連開発計画（UNDP）、東北大学災害科学国際研究所
 場所：ホテルメトロポリタン仙台（21階 スカイホール銀河）

国連防災世界会議期間中の3月15日（日）、東北大学と国連開発計画（UNDP）は、「災害統計グローバルセンター」を新年度より災害科学国際研究所（IRIDeS）に設置することを共同記者発表しました。記者発表には、ヘレン・クラーク UNDP 総裁、里見 進 東北大学総長、奥山 恵美子 仙台市長、シャムシャド・アクタール 国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）事務局長、今村文彦 災害科学国際研究所所長および多数の報道機関の方々が出席し、司会進行を当研究所 情報管理・社会連携部門 社会連携オフィスの小野裕一 教授が務めました。

はじめに、里見総長がスピーチを行い、今村所長が英語への通訳を行いました。まず、今回のセンター設置の背景を説明し、東日本大震災後、東北大学は被災地の大学として、よりよい復興（ビルド・バック・ベター）および世界の防災への貢献を目指してきたこと、質の高い統計データは科学者にとって不可欠であるが、日本では当たり前のように利用されている災害統計が多く、国で未整備であり、有効な防災政策立案をするためには、各国での災害統計システムの確立が必須であることを述べました。今後は、各国のこの分野での支援実績があるUNDP、災害データを集積・アーカイブ・分析できる IRIDeS のそれぞれの長所を生かし、また、ESCAP や国内の主要防災機関・研究機関と連携して、災害統計グローバルセンターを発展させ、今後の世界の防災に貢献していく決意を表明しました。

続いてクラーク総裁が、リスクを理解せねば、持続可能な発展は不可能であると述べ、災害統計グローバルセンターが、リスクを理解するための科学的データを蓄積・提供する機関となることへの期待およびUNDPの具体的な協力方法を述べました。その後、奥山市長・アクタール事務局長も、同センターへの祝辞と今後の協力について述べました。質疑応答部分では、報道機関各社から、数多くの質問が寄せられました。



発表式の様子



（左から）今村所長、里見総長、クラーク総裁、奥山市長、ショウヤー部長（UNDP）、アクタール事務局長

文責：今村文彦（災害リスク研究部門）、
 小野裕一（情報管理・社会連携部門）、
 中鉢奈津子（広報室）